

京都薬科大学概要

2023



**Kyoto
Pharmaceutical
University**

京都薬科大学は、1884（明治17）年、京都府御雇ドイツ人教師、ルドルフ・レーマン先生の薫陶を受けた教え子たちによって創立された京都私立独逸学校、特にその「別課学科（別科）」（のち薬学科）を礎石としています。その後、本学は1949（昭和24）年に京都薬科大学へと昇格しましたが、その建学の精神である「愛学躬行」は今に受け継がれています。本学では「愛学躬行」の“Philosophia et Praktikos”という言葉を入校ホール正面に掲げ、本学の建学の精神として末永く伝えることとしています。



2024年に創立140周年を迎える本学は創立以来、薬学の分野だけでなく産業～社会に貢献することをモットーとしてきました。その核となるのは研究活動です。研究で得られた成果を社会に還元するとともに、その成果から見出された科学的知見、科学的思考を教育に活かすことで、さらに本学の教育・研究を発展させることができると考えています。この研究活動を重視した教育により、優れた人材を様々な分野に輩出しています。

理事長 木曾 誠一

学長 赤路 健一

■建学の精神 愛学躬行 Philosophia et Praktikos

■教育理念

薬学部薬学科

本学は高度の教育及び学術研究機関として、薬学の教育及び研究を推進することにより、生命の尊厳を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念とする。

大学院薬学研究科

薬学の教育及び研究をより一層推進することにより、学術研究の高度化とともに、生命の尊重を基盤として人類の健康と福祉に貢献することを教育理念とする。

■教育目的

薬学部薬学科

本学における教育は、医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼ね備えた薬剤師に必要な能力を身につけ、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的とする。

大学院薬学研究科

高度な薬学の知識と研究能力を身につけ、基礎薬学系及び臨床薬学系の様々な薬学の分野で自立した研究活動を行うことができ、かつ、国際的貢献ができる有用な人材を育成する。

■京都薬科大学薬学部の3つの方針

アドミッション・ポリシー

京都薬科大学は、「愛学躬行」を建学精神とし、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）を兼ね備え、医療・創薬・生命科学の発展に貢献できる薬剤師の養成を目指している。入学者は本学の建学精神や教育理念・教育目的をよく理解し、薬学を学ぶことに強い熱意をもって学士（薬学）に求められる素養を身につけることが要求される。そのために以下の能力を備えた者を、各種選抜試験を通して入学させる。

- AP1. 理科や数学などの基礎科学に加え、英語力など、薬学を学ぶ上で必要な、幅広くバランスの取れた知識や技能を有している。（知識・技能）
AP2. 論理的に思考・表現し、自らの考えを的確に他者に伝えることができる。（思考力・判断力・表現力）
AP3. 自ら進んで物事の課題や問題点を考え、解決するために努力できる。（主体性）
AP4. 思いやりと協調性を持ち、他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。（協働態度）

参考：カッコ内の語句は以下の「学力の三要素」である。

1. 知識・技能
2. 思考力・判断力・表現力等の能力
3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

カリキュラム・ポリシー

京都薬科大学は、ファーマシスト・サイエンティストとしての素養を身につける教育を行うため、次の方針を基に体系的なカリキュラムを編成・実施する。

カリキュラムの編成においては、学生がディプロマ・ポリシーに掲げた5つの素養を修得するために、基礎的な知識・技術・態度の修得にはじまり、これらを統合して思考・表現する能力、さらには、活用して行動する実践力の順に、年次進行的に身につける体系的なカリキュラムの編成を基本方針とする。

この編成方針に基づいたカリキュラムにおける学修内容は、「薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）」に準拠し、「薬学準備教育ガイドライン」、「薬学アドバンスト教育ガイドライン」、「薬学実務実習に関するガイドライン（平成27年2月）」を踏まえて設定することを基本とする。これらに本学独自の学修内容を加え、5つの各素養を身につけるための学修内容を以下の各方針に基づいて授業科目群として順次性をもって編成し、各授業科目に応じた到達目標・学修内容・評価方法を設定することによってカリキュラムを実施する。

CP1. 専門実践力の養成（科学・技術）

初年次における薬学準備教育の充実により、高等学校と大学との知識を連結させ、薬学への関心を高める。「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基本とし、本学独自の学修内容で体系的に薬学を学ぶことにより、高度な知識、統合的な思考力、技術、態度を身につけ、医療を通じて人に奉仕し、社会に貢献できる能力を育む。

CP2. 研究的思考・実践力の養成（科学・技術）

総合薬学研究（卒業論文研究）において、最先端の科学に接することにより、4年次までに培った統合的思考力と技術をさらに高め、これらを基盤とした問題発見・解決能力を養成する。さらに5年次より探求薬学コースあるいは実践薬学コースへのコース選択により、専門性を深化させその領域において創造性を発揮できる能力を育む。

CP3. 教養と倫理観を伴う人間性の醸成（人間性）

初年次から教養教育および語学教育を充実させ、幅広い教養と視野を身につけ、医療に関わる専門家として、より深く他人を思いやる心と生命を尊重する倫理観を育む。

CP4. 社会における協働力の養成（人間性）

初年次におけるアクティブラーニング的な学習形態を取り入れた少人数教育（早期体験学習、基礎演習）等を発端とし、総合薬学研究における分野等での他者との協働活動や実務実習において様々なニーズをもつ人々と接することで、実践的コミュニケーション能力を高め、医療機関や地域におけるチーム医療を始めとする様々な環境や職種において活躍できる能力を育む。

CP5. 自己研鑽意欲と教育意欲の醸成（科学・技術・人間性）

総合薬学研究における分野等での研究活動を通じて、自ら答を見つけることの大切さを実感し、日々進歩する医療に対応するために常に自己研鑽する意欲と態度を身につけ、他者に対し指導や議論、プレゼンテーションをすることにより、後進を育成する意欲や行動力を育む。

この方針を基に編成したカリキュラムの全体像を示すカリキュラムマップおよび個々の授業計画（到達目標・学修内容・評価方法）をシラバスに記載する。

ディプロマ・ポリシー

京都薬科大学は、教育理念および教育目的に基づき、また、「薬剤師として求められる基本的な資質」を踏まえ、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスが取れた薬剤師である「ファーマシスト・サイエンティスト」の基本的な素養を身につける教育を行う。本学のカリキュラムにより所定の単位を修得し、ファーマシスト・サイエンティストとしての次の5つの素養を身につけた学生に学士（薬学）の学位を授与する。

DP1. 多様な医療関連分野において、基礎薬学および臨床薬学の知識・技術を統合的に活用できる。（科学・技術）

DP2. 問題発見・解決において、基礎薬学および臨床薬学の知識・技術を基に思考・実証できる。（科学・技術）

DP3. 社会での薬学的知識・技術の活用において、生命を尊重する倫理観および幅広い教養を基に他者の多様性に対応できる。（人間性）

DP4. 薬学的知識・技術を基に多職種連携を担ううえで、他職種との協働に対応できる。（人間性）

DP5. 自己研鑽し続け、医療の進歩への対応と後進の育成に臨む意欲と行動力を有している。（科学・技術・人間性）

薬剤師免許を取得した本学卒業生は、ファーマシスト・サイエンティストの基本的な素養を身につけた薬剤師として、臨床領域をはじめ、創薬科学産業領域、学術・教育領域、保健・衛生行政領域等、医療に関連する多様な領域において、新たな活力となることが期待される。

基本データ

■ 創立年 1884年

■ 設置者 学校法人 京都薬科大学

■ 外部評価

■ 名称 京都薬科大学

■ 所在地 京都府京都市山科区御陵中内町5

○機関別認証評価（根拠規程：学校教育法）

各大学が大学全体（学部・研究科等）の点検・改善を継続的に行うことを促すために実施されています。本学では（公財）大学基準協会による認証評価を受審しており、その評価結果は次のとおりです。



評価：適合（2023年3月認定）

認定期間：2023年4月1日～2030年3月31日

○薬学教育評価（第三者評価：受審は任意）

（一社）薬学教育評価機構が行う評価事業で、2006年度にスタートした学部6年制薬学教育プログラムの点検・改善を継続的に行うことを促すために実施されています。本学の評価結果は次のとおりです。



評価：適合（2023年3月認定）

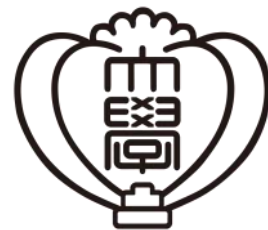
認定期間：2023年4月1日～2030年3月31日

校章の由来

ギリシャ神話に、Kolchis 国の Hekate の娘 Medea とその使徒達 Pharmakides が薬草をもって神に奉仕していたという物語があります。この故事により、薬品を Medicus と言い、薬学を Pharmazie と呼ぶようになりました。薬草のケシ（Papaver somniferum Linne, Opium, Poppy）は地中海の沿岸、小アジア、イラン地方の原産であり、その未熟果実より採取されるアヘンは、古く止しや薬として、またアルコール抽出物は鎮痛・鎮静・催眠薬として服用されていました。

1805年頃、ドイツの薬剤師 Serturmer がアヘンよりモルヒネを抽出し、純粋な結晶として単離しました。このモルヒネもまたギリシャ神話に登場する“夢の神 - Morpheus -”に因んで命名されました。このモルヒネは強力な鎮痛作用を有することが判明し、現在【クスリの王様】と呼ばれ、医療の場において絶大な効力を示しています。また、アヘンはコデイン、ノスカピン、パパベリン等のアルカロイドも含み、それらの成分もまた強力な鎮咳・鎮痙薬として使用されています。

本学の校章は、Pharmazie の Ph の文字をギリシャ文字Φに置き換え、それにケシの果実を配し、図案化したものです。本学はこの校章のもとに、人類の健康に寄与する“クスリ”というものを深く究明し、優れた薬学士、薬学者および薬剤師の養成に努めています。

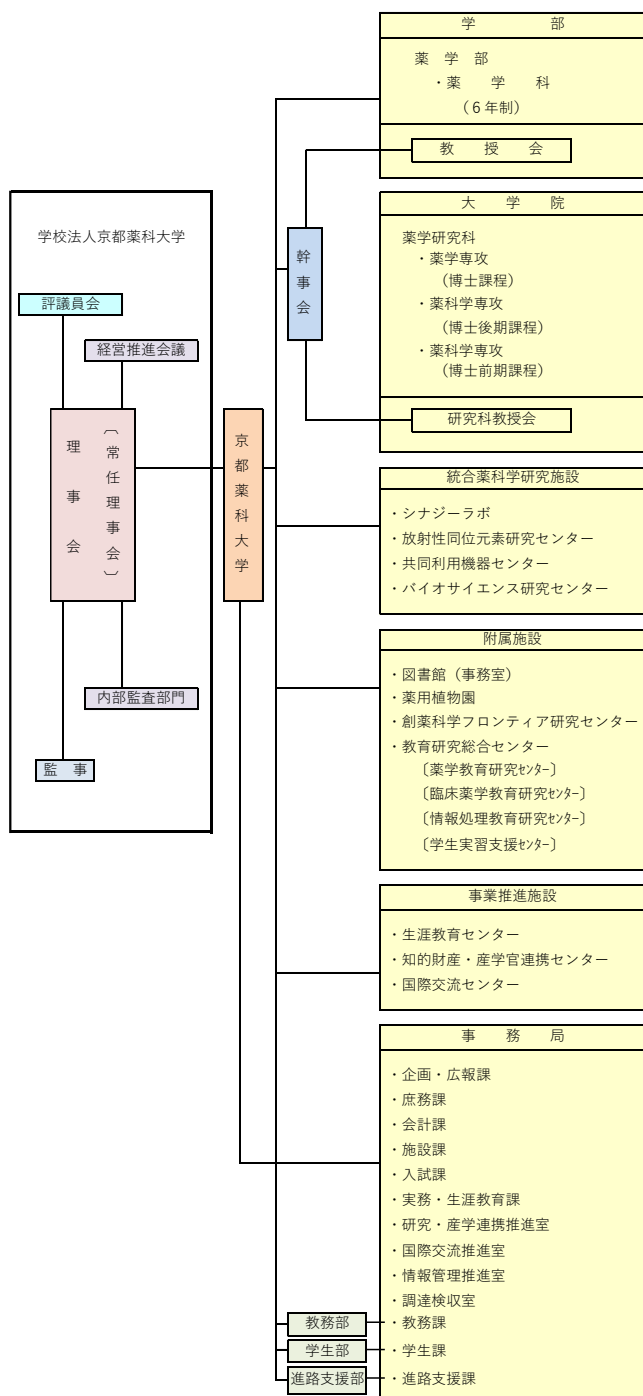


沿革

1884	ドイツ人ルドルフ・レーマン博士に学んだ人々が協力して上京区(現在は中京区)富小路夷川下ルに京都私立独立逸学校を創立 後に別科として薬学科を開設
1889	校舎を上京区(現在は中京区)河原町三条上ルに移し、医学予備校を併置
1892	薬学科を廃し、私立京都薬学校を設立
1898	上京区(現在は左京区)夷川通川端東入ル秋築町に移転
1902	医学予備校を廃止
1919	専門学校令により京都薬学専門学校を設立 私立京都薬学校を廃止
1932	東山区(現在は山科区)山科御陵中内町に校舎(本館・1号館-2000年5月解体、2号館-2008年3月解体)を新築し移転
1949	学校教育法により「京都薬科大学」が認可
1952	京都薬学専門学校を廃止
1956	東山区(現在は山科区)山科御陵中筋町に運動場を建設
1959	図書館建設(2010年6月解体)
1962	薬学部製薬化学科増設
1964	創立80周年記念事業の一環として2ヶ年計画で校舎の増改築を実施 1965年5号館建設(2006年2月解体) 1966年4号館建設(2006年1月解体)、6号館建設(2010年6月解体)
1965	大学院薬学研究科修士課程設置
1968	伏見区日野林に薬用植物園移転拡充
1970	動物研究センター(旧中央動物研究施設)建設(2013年9月解体)
1971	山科区御陵四丁野町(本校地より南約50m)に新校地を購入
1972	中央講堂兼体育館建設(2014年5月解体)
1973	南校舎(教養課程)建設(2012年2月解体) 薬学部生物薬学科増設 3学科制となる 育心館(旧8号館)建設
1974	図書館書庫増築(2010年6月解体)
1976	製薬化学科、生物薬学科の入学定員増員
1977	大学院薬学研究科博士後期課程設置
1979	放射性同位元素研究センター建設(2007年12月解体)
1981	大学ホール建設(2008年3月解体) 動物研究センター改修(2013年9月解体)

1983	教育研究総合センター(旧3号館)建設
1984	創立100周年
1985	滋賀県滋賀郡志賀町に蓬萊セミナーハウス建設(2008年3月売却)
1986	山科区御陵四丁野町(南校舎隣接地)に新校地を購入 テニスコート建設
1988	S棟(旧生命薬学研究所)建設
1993	大学院薬学研究科修士課程入学定員増員
1994	創立110周年
1995	大学入試センター試験導入
1997	臨床薬学研修センター、情報処理センターの設置
1999	大学院修士課程に臨床薬学専攻設置 創薬科学フロンティア研究センター建設
2001	学生会館Pavot(パボ)建設
2003	愛学館(前期)建設 愛学館3階に愛学ホール完成
2004	創立120周年
2005	愛学館(後期)建設 薬学6年制課程学生募集開始、薬学4年制課程学生募集停止
2006	薬学6年制課程設置
2007	S棟改修および放射性同位元素研究センター移転 臨床薬学教育研究センター建設
2010	躬行館建設 育心館改修 大学院薬学研究科薬科学専攻博士前期課程設置
2011	中央庭園建設、奏楽館建設 薬用植物園御陵園完成 生涯教育センター設置
2012	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程および薬科学専攻博士後期課程設置
2013	バイオサイエンス研究センター建設
2014	創立130周年、南風館建設、南校地整備(部室棟、警備員室、外構等)
2015	創立130周年記念館(中央講堂兼体育館)建設
2017	愛学躬行歴史資料室設置
2018	新たな資料の発見に伴う創立記念日の変更(4月15日から4月27日に変更)
2020	新型コロナウイルス感染症対策としてPCR検査室開設 遠隔講義収録システムの整備等

組織図



研究室・附属施設

創薬科学系	薬化学／薬品製造学／薬品化学／生薬学
分析薬科学系	薬品分析学／代謝分析学／薬品物理化学
生命薬科学系	衛生化学／公衆衛生学／微生物・感染制御学／細胞生物学／生化学／病態生理学
病態薬科学系	病態生化学／薬物治療学／臨床薬理学／薬理学／臨床腫瘍学
医療薬科学系	薬剤学／薬物動態学／臨床薬学／臨床薬剤疫学
基礎科学系	健康科学／物理学／数学／一般教育
薬学教育系	薬学教育研究センター／臨床薬学教育研究センター／情報処理教育研究センター／学生実習支援センター
統合薬科学研究施設	シナジーラボ／RIセンター／共同利用機器センター／バイオサイエンス研究センター
附属施設	図書館／薬用植物園／RIセンター／バイオサイエンス研究センター／創薬科学フロンティア研究センター／共同利用機器センター／生涯教育センター／知的財産・産学官連携センター／国際交流センター

学生数 (2023年5月1日現在)

区分		年次	定員	現員	男	女
学部(6年制)		1年次	360	450	120	330
		2年次	360	413	110	303
		3年次	360	370	106	264
		4年次	360	348	96	252
		5年次	360	329	81	248
		6年次	360	421	140	281
		計	2,160	2,331	653	1,678
大学院	薬学専攻 博士課程	1年次	10	10	6	4
		2年次	10	10	9	1
		3年次	10	10	7	3
		4年次	10	11	8	3
	薬科学専攻 博士前期課程	1年次	5	0	0	0
		2年次	5	0	0	0
	薬科学専攻 博士後期課程	1年次	2	0	0	0
		2年次	2	1	0	1
		3年次	2	0	0	0
	計		56	42	30	12
合計			2,216	2,373	683	1,690

教員組織 (2023年5月1日現在)

学部	教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
	33	3	15	4	9	1	18	10	0	1	75	19	94

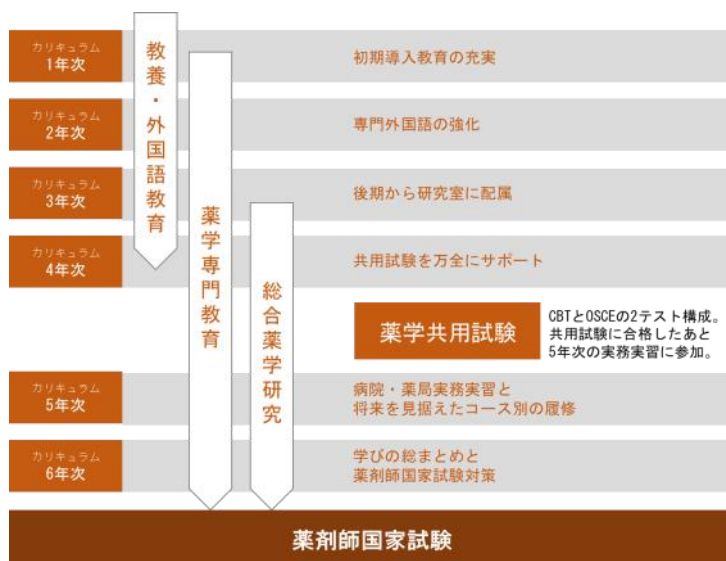
教育

学部

本学では、医療・創薬・生命科学に関する幅広い専門知識に基づいた思考力と行動力、さらには豊かな教養と生命の尊厳を踏まえた高い倫理観を伴う人間性を兼備した薬剤師に必要な能力を身につけ、臨床領域をはじめ、創薬科学領域、学術・教育領域、保健・衛生領域等、多様な領域において活躍できる人材を育成することを目的に、2006年度から6年制薬学部を設置しました。

学部では、継続的な教養教育と早期の専門教育により、豊かな人間性を育みながら高度な知識・技術・態度を修得するための体系的カリキュラムを設けています。特に、3年次後期から始まる「課題探求型」の研究活動は本学カリキュラムの特長の1つであり、科学を基盤とした問題発見・解決能力を培うことによって、あらゆる分野の最前線で活躍するための土台を築いています。

また、通常カリキュラムとは別に、超高齢社会や地域医療、グローバル化など多様な社会のニーズに応える人材育成を目指し、個人の希望に合わせて選択可能な各種プログラムも実施しています。



薬剤師国家試験合格率 90.91%
(2023年3月卒業生)

■薬剤師国家試験に対する取り組み

「薬剤師免許は必ず取得する。ただそれは最終目的ではない、通過点である。」これは本学が薬剤師国家試験に関する教育に取り組むうえで大切にしてきた考えです。本学では1年次から6年次までの講義において、薬剤師国家試験レベルの知識を伝えることに加え、ファーマシスト・サイエンティストに求められる「もう1段階上」の能力を醸成することを重視してきました。本学では、6年間の教育を通して学生に「薬学を考え抜く力」を身につけさせるとともに、その学びを総括する高学年次プログラムで薬剤師国家試験に対する充実した取り組みを展開しています。

本学では高学年次に薬学の学びを総括する科目として「薬学総合演習」や「アドバンスト薬学」を設けています。これらの科目はそれぞれ薬学共用試験（CBT）や薬剤師国家試験の対策だけを目的とした科目ではなく、これまで学んできた様々な科目を振り返り、関連させることを目的とした科目です。本学では、科目を関連させるために大切な薬学における基礎力である「物理」「化学」「生物」をまず徹底的に強化し、薬学を総括するうえでの土台をしっかりと固めます。その上で、薬学の応用科目を振り返り、関連させることで「生きた薬学」として学生に定着させることを可能としています。このような教育が学生の「薬学を考え抜く力」を育て、ひいては薬剤師国家試験にも強い学生を育てることにつながります。

■特徴的なプログラム

合同多職種連携教育（IPE）

本学では多様化する患者対応のためにチーム医療を推進できる人材育成の一環として、京都橘大学と合同で多職種連携教育（IPE：Interprofessional Education）を行っています。このプログラムでは異なる医療教育を受けている学生たちが垣根を越えて学び、話し合うことを通して、それぞれの職種の強みや弱みを知り、チーム医療への貢献を理解することを目的として2016年度より開催しています。

同じシナリオ事例を用いて異なる学科に所属する学生がそれぞれ学んできた専門知識を駆使して最適の医療について共に考え、グループ発表を行うことで、チーム医療の有効性と共通の目標（アウトカム）を設定する難しさについてより深く考える機会としています。

本プログラムは、実際の医療現場において、患者のための治療・ケアの提案ができる実質的な力を身につけるモデルケースとなりうるものと考えます。チーム医療を実践的に学ぶ機会として今後もプログラムの充実を図り、より専門性と実践能力の高い人材を育成し、地域医療への貢献を目指していきます。



在宅医療研修プログラム

全国の薬科大学に先立ち、本学では医療法人社団都会渡辺西賀茂診療所とゆう薬局グループの協力のもと、在宅チーム医療研修として、2016年度から学部5年次生を対象にした「在宅医療研修アドバンストプログラム」を、2018年度から大学院生を対象とした「地域在宅医療プログラム」を実施しています。

学部生の「在宅医療研修アドバンストプログラム」では、2週間で在宅医療に関わる基礎知識や医療倫理、緩和医療等に関する講義を受講しながら、訪問医と同行する訪問診療、訪問看護師と同行する訪問看護及び訪問薬剤師と同行する訪問薬剤管理指導などの在宅実習を行います。

大学院の「地域在宅医療プログラム」では、2ヶ月にわたるプログラムを通して地域包括ケアシステムにおけるがん薬物療法において指導的役割を果たし、高度で先進的な在宅医療の基盤となるエビデンス構築を担う研究スキルを備えた薬剤師の養成を目指しています。

大学院

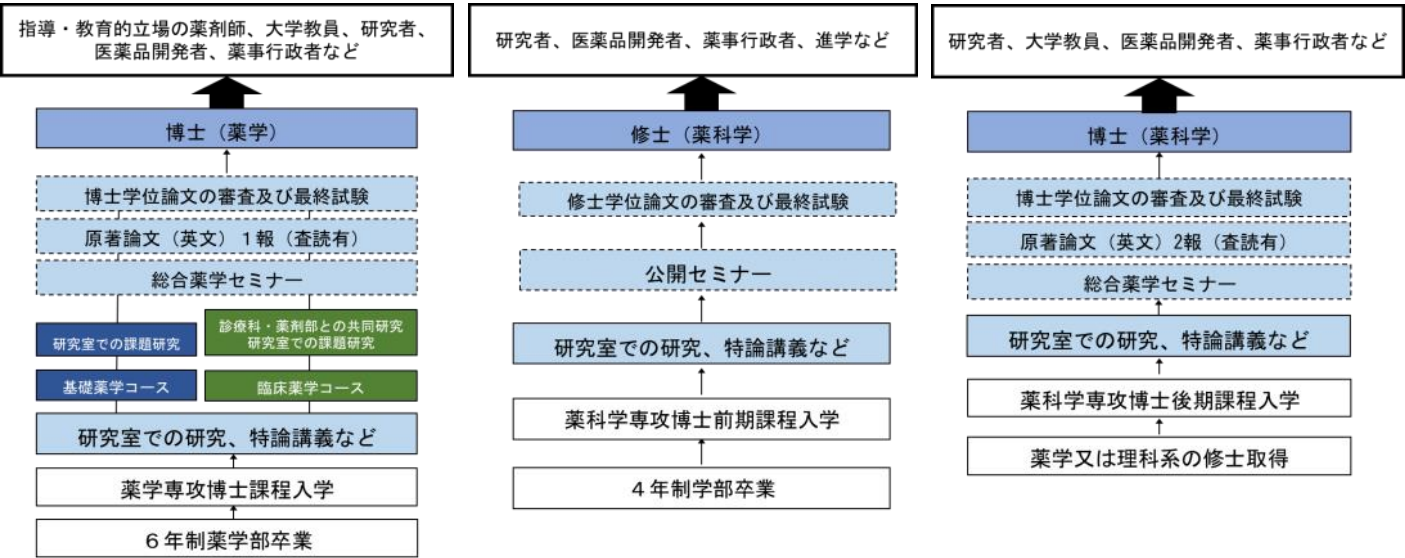
薬学のエキスパートをめざして、さらなる「研究」のステージへ

薬学の広い分野を学んだ後、さらに特定領域のエキスパートを目指す大学院。本学では、基礎および臨床薬学に関する高度な学識と研究能力を有した指導的な臨床薬剤師あるいは国際的に活躍出来る基礎および臨床薬学研究者を養成する薬学専攻博士課程（4年）と基礎薬学の領域で国際的に活躍できる研究者を養成する薬科学専攻博士課程（前期課程2年および後期課程3年）を設置しています。

薬学専攻博士課程（4年）

薬科学専攻博士前期課程（2年）

薬科学専攻博士後期課程（3年）



研究

本学は、社会の課題解決を目指した様々な教育研究プロジェクトや、各分野・センターでの研究活動を行っています。「なぜ京都薬科大学では、薬剤師になるための学修に加えて研究にも力を入れているのか？」という疑問を持たれるかもしれません。学校教育法第83条は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」と規定しています。つまり、大学にとって“教育”と“研究”は必須の活動であり、本学のような「医療系」の大学にもそれは当てはまります。

本学では、学長のリーダーシップのもと、「研究活動により得られた研究成果（知見・科学的思考を含む）を教育活動に還元してこそ研究活動の意義がある」として、研究活動を積極的に推進してきた経緯があります。2020年には、本学が目指す研究活動の指針として、8項目からなる「京都薬科大学研究ポリシー」を制定しました。本学の研究活動に対する考え方は、本ポリシーの「4. 研究の教育への反映」として盛り込んでいます。

今後も本学は、建学の精神「愛学躬行」に則り、薬学領域において常に“最先端”で本学の“オリジナリティー”を打ち出した学術研究を推進します。

科学研究費助成事業
(科学研究費補助金／学術研究助成基金助成金) ※1

制度	種目	区分	人数	助成額(千円)
科学研究費補助金	新学術領域	新規	1	2,990
	基盤研究(S)	継続	1	1,300
	基盤研究(A)	継続	1	650
	基盤研究(B)	新規	6	35,225
		継続	5	14,285
	特別研究員奨励費	新規	1	1,200
		継続	1	1,000
学術研究助成基金助成金	基盤研究(C)	新規	13	11,471
		継続	36	47,410
	挑戦的研究(萌芽)	新規	1	1,560
		継続	2	1,780
	若手研究	新規	1	3,510
		継続	9	13,889
	研究活動スタート	継続	1	1,687
	国際共同研究強化(A)	継続	1	5,427
合計			80	143,384

※1：2022年度末時点で本学に在籍していた研究者が集計対象

日本学術振興会特別研究員の採用

年度	2018	2019	2020	2021	2022
新規採用者数	2	3	3	1	1

2022年度※2研究助成寄付金の受け入れ件数及び金額

件数	金額(円)
24	25,267,000

※2：入金日を基準とする

■教育研究施設

本学では、先進の研究と質の高い薬学教育を行うために充実した施設と最新の設備を有しており、学術研究機関としての社会的責務を確実に果たします。

愛学館

本学の建学の精神「愛学躬行」の名を冠した「愛学館」。地下1階・地上7階建て建物には、講義室や実習室、研究室を完備し、自習室、食堂、売店、会議室、事務室等キャンパスの中核施設としての役割を担っています。



躬行館

愛学館同様、本学の建学の精神「愛学躬行」を掲げた「躬行館」。講義室、セミナー室、研究室を中心とした地上5階建ての講義棟と、地下1階・地上3階建ての図書館棟から成ります。1階には食堂やコンビニエンスストアも備えています。



教育研究総合センター

薬剤師国家試験に関する教育を主に行う「薬学教育研究センター」と、情報科学教育、マルチメディア教材の開発やサーバ・ネットワーク管理等情報技術面での学内支援を行う「情報処理教育研究センター」を設けた地下1階・地上3階建ての施設です。



臨床薬学教育研究センター

学生が実務実習で医療現場に出向く前の4年次に基本的な薬剤師の知識・技能・態度を身に付けるための教育を行う施設です。また、薬剤師を対象とした卒業実務研修を実施するなど、医療薬学に広く貢献できる施設として活用しています。



バイオサイエンス研究センター

国内の薬学系大学における動物実験研究施設としては、規模・設備・内容共に最高水準の機能を備えています。地球環境に配慮し、先端的研究の実施が可能な機能・品質・効率に優れた地下1階・地上3階建ての施設です。



創立130周年記念館

体育館としてはトレーニングルームやシャワールーム、更衣室を完備し、講堂としては中央舞台と全自動移動観覧席（512席）を備えた地上3階建ての施設。地域の災害時の避難施設としても位置づけられています。



創薬科学フロンティア研究センター

文部科学省が選定する「学術フロンティア推進事業」の共同研究拠点として設立された地上3階建ての施設。難病の克服という社会的貢献度の高い研究を目指し、国内外の研究者との共同研究を行うことを目的としています。



薬用植物園

伏見区日野に所在している約13,000㎡の薬用植物園では日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に、染料植物などの有用植物についても展示植栽しています。薬用植物の栽培方法の検討をはじめ、植物の採集・標本化や所蔵標本の管理・データベース化などを行っており、教育・研究において広く活用されています。



学術交流・連携

本学では様々な大学や医療機関等と協定を締結しており、以下にその一部をご紹介します。

医療法人社団 都会／株式会社ゆうホールディングス

日々在宅医療の現場で尽力されている「診療所（地域医療機関）」「薬局」との包括的な連携のもと、三者で「相互の学術交流」「疫学研究の推進および研究成果の地域医療への還元」「医療活動・教育研究活動に資する人材育成」に取り組みます。

京都4大学連携機構

本学と京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立大学、の4大学は「ヘルスサイエンス系の教育研究の連携に関する協定」を締結し、京都4大学連携機構を設置しました。また、ヘルスサイエンス分野における教育研究を推進する「京都ヘルスサイエンス総合研究センター」が設置されました。センターでは各大学の教員交流を深めつつ、研究テーマを設定。そこに学生が参画することで、京都の健康づくりに貢献するとともに、世界で通用する次世代研究者の育成に取り組んでいます。

3大学連携SCRUMプロジェクト（星薬科大学、明治薬科大学）

3大学が教育・研究に関するノウハウを集結し、卓越した科学的思考を基盤として医療の課題に挑む薬剤師の養成を目指すプロジェクトです。

京都橘大学

京都橘大学と本学は2016年度から共同で実施してきた多職種連携教育を主軸に、両大学がさらに地域に向き合って課題を解決していく姿勢をより強くするとともに、両大学の取り組みの成果を積極的に社会に発信し、日本全国の地域が抱える課題を解決するモデルを京都の地「山科」から提案していきたいと考えています。

■国際学術交流協定校一覧

大学名	国名	締結年度
瀋陽薬科大学	中国	2005
マヒドール大学	タイ	2012
アレキサンドリア大学	エジプト	2013
国立台湾大学	台湾	2015
MCPHS 大学	米国	2015
カリフォルニア大学サンフランシスコ校	米国	2015
国立成功大学	台湾	2016
ハノイ薬科大学	ベトナム	2017
ヴェルツブルク大学	ドイツ	2020

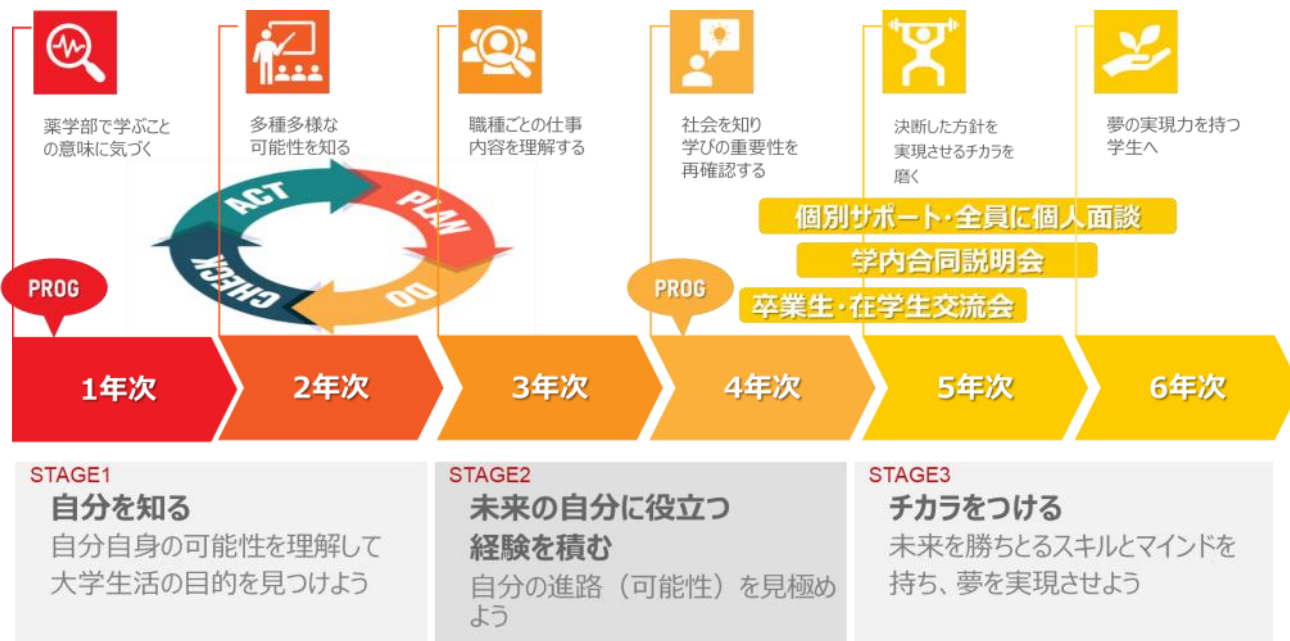
大学名	協定先	国名	締結年度
京都4大学 （本学、京都工芸繊維大学、 京都府立医科大学、京都府立大学）	CRUI [※] （イタリア学長会議） 39 大学	イタリア	2017

※The Conference of Italian University Rectors

就職

キャリア支援プログラム

1、2年次をSTAGE1『自分を知る』、3、4年次をSTAGE2『未来の自分に役立つ経験を積む』、5、6年次をSTAGE3『チカラをつける』とし、各学年のレベルやニーズに応じた「キャリア支援プログラム」を経て、夢の実現力を持つ学生を目指します。



就職先一覧 (2022年度)

製薬企業 エーザイ/大塚製薬/大塚製薬工場/小野薬品工業/科研製薬/京都薬品工業/杏林製薬/協和キリン/クラシエ製薬/小林製薬/荊盛堂薬品/佐藤薬品工業/JCRファーマ/シオノギファーマ/第一三共/大正製薬/大鵬薬品工業/太陽ファルマテック/武田薬品工業/田辺三菱製薬/中外製薬/鳥居薬品/日本新薬/日本イーライリリー/藤本製薬/マルホ/ヤンセンファーマ

その他化学系企業 アース製薬/東京化成工業/東洋新薬/ライオン

その他企業 CBC/住友商事/創和学園/東海東京フィナンシャル・ホールディングス

CRO IQVIAサービシズジャパン/イーピーエス/エイツーヘルスケア/サイネオス・ヘルス・クリニカル/シミック/新日本科学PPD/メディサイエンスプランニング

調剤薬局 I&H (阪神調剤グループ)/アイセイ薬局/アインファーマシー/アビスファーマシー/イマトクメディック/ABC薬局/エコ薬局/エスマイル/エムシーエス/おくすりホンポ/カイセイ薬局/クオール/クラフト/総合メディカル/第一薬局/田辺薬局/たんぼ薬局/日本調剤/ファーマシー/ファルコファーマシー/フロンティア薬局/ホロン/すずらん薬局/マスカット薬局/みやこ薬局/メディカルシステムネットワーク/なの花薬局/メディカル光/薬樹/薬局タカサ/ゆう薬局

ドラッグストア イオンリテール/ウエルシア薬局/キリン堂/サンドラッグ/スギ薬局/中部薬品/ツルハグループドラッグ&ファーマシー/西日本/トモズ/マツモトキヨシグループ/ユタカファーマシー/レディ薬局

大学病院 大阪医科薬科大学病院/大阪公立大学医学部附属病院/大阪大学医学部附属病院/京都大学医学部附属病院/京都府立医科大学附属病院/奈良県立医科大学附属病院

公立病院 大阪市立総合医療センター/京都中部総合医療センター/高知医療センター/神戸市民病院機構/堺市立総合医療センター/山陰労災病院/島田市立総合医療センター/市立福知山市市民病院/豊橋市民病院/奈良県立病院機構/広島市立病院機構/大和高田市立病院

準公的病院 大阪府済生会茨木病院/大阪府済生会吹田病院/大阪府済生会中津病院/大津赤十字病院/京都済生会病院/京都第一赤十字病院/京都第二赤十字病院/済生会滋賀県病院/JCHO近畿四国地区/昭和伊南総合病院/諏訪赤十字病院/長浜赤十字病院/広島赤十字・原爆病院

私立病院 愛仁会/医誠会/淡海医療センター/大阪警察病院/京都岡本記念病院/京都桂病院/協和会/錦秀会/熊谷総合病院/倉敷中央病院/甲南医療センター/白庭病院/生長会/ベルランド総合病院/製鉄記念八幡病院/聖隷福祉事業団/蘇生会総合病院/中部徳洲会病院/ツカザキ病院/天理よろづ相談所病院/名古屋徳洲会総合病院/西陣病院/日本パプテス病院/東住吉森本病院/福岡新水巻病院/松波総合病院/向日回生病院/八尾徳洲会総合病院/淀川キリスト教病院/洛和会ヘルスケアシステム

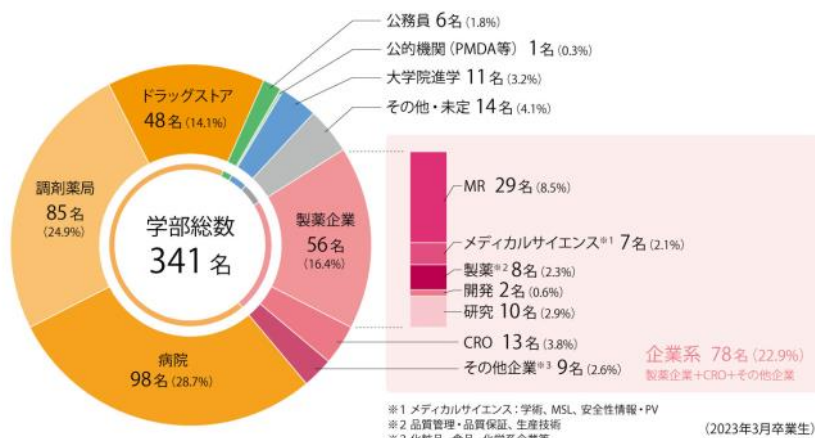
国家公務員 文部科学省

地方公務員 大阪市/京都市/京都府/滋賀県

公的機関 医薬品医療機器総合機構 (PMDA)

本学進学 京都薬科大学大学院

他大学進学 京都大学大学院薬学研究科/名古屋大学大学院創薬科学研究科



生涯教育

■京都薬科大学 履修証明プログラムLehmannプログラム（専門・認定薬剤師資格 取得支援）

医療の高度化や多様化、地域医療の推進などを背景に、薬剤師に求められる役割は変化し、質の高い薬学的管理や高度な専門性の習得が求められています。各専門領域において質の高い業務に従事することが期待される、学会などが認定する「専門・認定薬剤師」資格を取得するためには、実務経験に加え、論文や症例報告書の作成が課せられています。しかし、論文や症例報告書の作成指導を専門的に受けられる機会が限られているため、資格取得を断念する薬剤師も一定数存在するのが現状です。本プログラムは、このような課題の解決に向け、専門・認定薬剤師資格取得をサポートするため、科学を基盤とした学び直しの機会を提供し、円滑な医療推進、健康維持に貢献することを目指した社会人向けの年間カリキュラムとして展開します。

コース	内容
症例報告書作成コース	薬学的視点に基づいた症例解析や症例報告書の作成技能を学ぶ。
研究計画・実践コース	適切な研究計画を立て、実践する技能と、研究成果を学会等で発表する方法を学ぶ。
論文作成コース	論文作成の基礎を理解し、わかりやすい論文を執筆できる技能を学ぶ。

【少人数制教育】

- ・2、3名につき1名の指導教員
- ・演習によるきめ細やかな指導

【医療統計・ICT・リーダー育成科目】

- ・専門科目だけでなくリーダーに求められる素養を身に付ける

【リーダーを目指す薬剤師コミュニティ】

- ・受講生および修了生が参加するコミュニティの設置
- ・修了後2年間本学図書館およびデータベースが利用可能

■生涯研修プログラム

本学は2018年2月2日に公益社団法人薬剤師認定認証機構（CPC）から認定薬剤師認証機関（G24）として認証され、在学生から卒業生、さらには全ての薬剤師を対象とした生涯研修認定薬剤師制度を展開しています。

新たな罹患、基礎疾患の悪化、安心・安全な薬物療法が行われているかなど、患者が抱える問題は数知れません。その原因を突き止めるための考え方、思考プロセスが臨床推論です。“臨床推論”という思考プロセスは、患者が訴える主訴や自覚症状、フィジカルアセスメント、検査所見（検査値）などから病気を診断するスキルとして医師が活用しているものですが、薬剤師にとっても役立つスキルになると期待されています。

本学では、薬剤師に必要な臨床推論力を涵養するために必要な生涯研修プログラムを提供することにより、自己研鑽を志す全国すべての薬剤師を支援し、ひいては医療の質向上に貢献することを目的としています。

プログラム		特徴
卒後教育講座		薬学的専門性を磨き、患者への薬学的介入を実践するための幅広い知識を習得する講座
フィジカルアセスメント講座	入門コース	フィジカルアセスメントを学び、的確な処方提案につなげるスキルを習得する講座
	実践コース	バイタルサイン収集やアセスメント実習、活用事例紹介から学んだ臨床推論力を、明日からの現場で活かす実習講座
漢方講座		漢方治療の基礎から臨床までを学ぶ、漢方初級者から受講できる講座
実務支援セミナー		地域連携薬局の認定要件である無菌製剤処理を基礎理論から手技まで学べる実習セミナー
e-ラーニング講座		卒後教育講座と漢方講座を時間や場所に縛られずに受講できる配信型の講座

京都薬科大学は発行体格付「A A－（ダブルA マイナス）／安定的」を取得しています

本学は、2004年から株式会社格付投資情報センター（R&I）の格付「A A－（ダブルA マイナス）」を取得しており、2022年度も「A A－」を更新しました。2022年度の格付調査においては、教育力の高さや私大薬学部トップクラスの就職実績に加え、教職協働の共通理念の下に「選ばれ続ける大学」として伝統と進化を融合した「京薬ブランド」を発展させる取組が評価されました。

「A A－」は、21段階に区分されている格付順位の上から4番目であり、単科大学としては、極めて高い水準にあるといえます。

法人会計決算の概要（2022年度）

○資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度に行った諸活動に対応するすべての資金の動き（収入と支出の内容）を表すものです。

(単位 千円)				
収入の部	科目	予算	決算	差異
	学生生徒等納付金収入	4,218,500	4,300,970	△ 82,470
	手数料収入	67,700	67,704	△ 4
	寄付金収入	47,000	39,747	7,252
	補助金収入	648,100	573,607	74,492
	資産売却収入	10,000	13,727	△ 3,727
	付随事業・収益事業収入	67,400	63,277	4,122
	受取利息・配当金収入	133,900	128,913	4,986
	雑収入	114,500	144,268	△ 29,768
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	548,600	638,557	△ 89,957
	その他の収入	2,624,000	2,453,367	170,632
	資金収入調整勘定	△ 826,900	△ 827,299	399
	前年度繰越支払資金	3,475,100	3,484,313	△ 9,213
	収入の部合計	11,127,900	11,081,155	46,744
支出の部	人件費支出	1,972,400	1,937,071	35,328
	教育研究経費支出	1,667,400	1,613,000	54,399
	管理経費支出	378,700	356,140	22,559
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	236,200	272,048	△ 35,848
	設備関係支出	306,300	176,481	129,818
	資産運用支出	2,651,700	2,539,480	112,219
	その他の支出	982,800	943,072	39,727
	予備費	20,000		20,000
	資金支出調整勘定	△ 283,600	△ 335,664	52,064
	翌年度繰越支払資金	3,196,000	3,579,523	△ 383,523
	支出の部合計	11,127,900	11,081,155	46,744

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

○貸借対照表

貸借対照表は、決算時における資産、負債、基本金及び収支差額を把握するもので、教育研究に必要な財産を適正かつ安全に保持しているかどうかの財政状態を確認するためのものです。

(単位：千円)				
資産の部	科目	本年度末	前年度末	増減
	固定資産	34,809,432	34,308,384	501,048
	有形固定資産	12,191,281	12,574,768	△ 383,486
	特定資産	22,476,853	21,611,074	865,779
	その他の固定資産	141,297	122,541	18,756
流動資産		3,923,442	3,731,154	192,288
	資産の部合計	38,732,875	38,039,538	693,337
負債の部	固定負債	850,547	902,499	△ 51,952
	流動負債	987,745	882,720	105,024
	負債の部合計	1,838,292	1,785,219	53,072
純資産の部	基本金	36,411,849	35,750,704	661,144
	繰越収支差額	482,733	503,614	△ 20,880
	純資産の部合計	36,894,583	36,254,318	640,264
負債及び純資産の部合計		38,732,875	38,039,538	693,337

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。

○事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度（4月1日～翌年3月31日）の経常的活動（教育活動収支、教育活動外収支）及び臨時的活動（特別収支）を区分して、それぞれの事業活動収入と事業活動支出の内容及び基本金組入後の収支均衡の状況を明らかにするものです。また、資金収支計算書はすべての資金の動きを明らかにするものですが、事業活動収支計算書には、資金の収支を伴わない「現物寄付」、「減価償却額」、「退職給与引当金組入額」なども含めた事業活動収支の状況について把握することを目的としています。

(単位 千円)					
区分		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,218,500	4,300,970	△ 82,470
		手数料	67,700	67,704	△ 4
		寄付金	47,000	40,965	6,034
		経常費等補助金	456,500	459,291	△ 2,791
		付随事業収入	67,400	63,277	4,122
		雑収入	114,500	141,364	△ 26,864
		教育活動収入計	4,971,600	5,073,573	△ 101,973
	事業活動支出の部	人件費	1,941,000	1,914,004	26,995
		教育研究経費	2,401,300	2,335,105	66,194
		管理経費	473,500	451,348	22,151
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	4,815,800	4,700,459	115,340
	教育活動収支差額		155,800	373,113	△ 217,313
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	133,900	128,913	4,986
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	133,900	128,913	4,986
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		133,900	128,913	4,986
経常収支差額		289,700	502,027	△ 212,327	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	3,727	△ 3,727
		その他の特別収入	201,600	144,310	57,289
		特別収入計	201,600	148,037	53,562
	事業活動支出の部	資産処分差額	10,000	9,801	198
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	10,000	9,801	198
	特別収支差額		191,600	138,236	53,363
〔予備費〕		20,000		20,000	
基本金組入前当年度収支差額		461,300	640,264	△ 178,964	
基本金組入額合計		△ 823,100	△ 661,144	△ 161,955	
当年度収支差額		△ 361,800	△ 20,880	△ 340,919	
前年度繰越収支差額		446,700	503,614	△ 56,914	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		84,900	482,733	△ 397,833	

（参考）

事業活動収入計	5,307,100	5,350,524	△ 43,424
事業活動支出計	4,845,800	4,710,260	135,539

※単位未満を切捨てしているため、合計が一致しない場合があります。



本校地 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5

南校地 〒607-8412 京都府京都市山科区御陵四丁野町1

TEL: 075-595-4600(代表) / FAX: 075-595-4750(代表)

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/>